

2021年度日本ヘルスコミュニケーション学会 優秀書籍賞の決定

優秀書籍賞選考委員会

高山智子、中山健夫(委員長)、藤崎和彦、宮原哲(50音順)

優秀書籍賞規則(2021年4月30日制定)に基づき、4名の選考委員(学会世話人)による審議の結果、以下の著者による書籍を優秀書籍賞と決定した。

石川ひろの(帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授)

保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門 大修館書店 2020年

同書は対人からマスメディア、医療面接からヘルスキャンペーンまで幅広くヘルスコミュニケーション学を俯瞰し、重要な理論から実践的な技能が分かりやすく紹介されており、ヘルスコミュニケーション学に関心のある入門者から専門家まで、多くの読者に益することが多い。本学会の第1回優秀書籍賞に最も相応しいとの判断で委員が一致し、理事会でも承認された。

この場をお借りして、改めて石川ひろの先生の受賞にお祝いを申し上げたい。

本学会優秀書籍賞は、国内で発刊(期間は限定せず)されたヘルスコミュニケーション領域の学術の発展に資する翻訳以外の書籍を対象としており、自薦・他薦により、正会員と学生会員から募集を行なっている。2022年度も多くの応募があることが期待される。

(文責:中山健夫)

2021 年度日本ヘルスコミュニケーション学会 優秀書籍賞受賞者コメント

石川ひろの(帝京大学大学院公衆衛生学研究科)



この度は記念すべき第1回の書籍賞をいただきまして、誠にありがとうございます。ご講評くださいました中山健夫先生をはじめ、選考に携わってくださった先生方に感謝申し上げます。

本書は、専門書ではなく教科書であり、入門書です。毎年ヘルスコミュニケーション学会に参加して感じるのは、この領域の幅広さ、奥深さです。とても1冊の本にまとめられるものではないと思いつつ、保健医療専門職や学生の方に向けて、ヘルスコミュニケーション学への入口となるような日本語の書籍を作成したいという思いで、出版に至りました。多くのすぐれた専門書がある中で今回選んでいただきまして、大変恐縮しつつ、光栄に思っております。

本書の作成には、これまで教育に携わらせていただいた帝京大学、東京大学、滋賀医科大学での講義を通じた経験、またそれらの講義を一緒に担当させていただいた多くの先生からの学びがもとになっております。これまでのご指導ご支援に、改めて心より感謝申し上げます。この賞を励みに、ヘルスコミュニケーションの向上に向けて、自分自身が今関われる場所からより一層精進して参りたいと思います。今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。